

I. 調査要領

1. 調査時点及び調査対象期間

(1)調査時点 平成 26 年 7 月 1 日

(2)調査対象期間 平成 26 年 4 月～6 月期の実績および平成 26 年 7 月～9 月期の見通しについて調査した。

2. 調査対象

当所会員企業を対象に、商業+食品業部会、水産業部会、機械工業部会、建設業部会、観光・サービス業+諸業部会より各 30 社、計 150 社を抽出し郵送により調査した。

3. 回収状況

	対象企業数	回答企業数	回 答 率
商業+食品業部会	30 社	18 社	60.0%
水産業部会	30 社	23 社	76.6%
機械工業部会	30 社	19 社	63.3%
建設業部会	30 社	21 社	70.0%
観光・サービス業+諸業部会	30 社	18 社	60.0%
合 計	150 社	95 件	66.0%

注) 本調査結果の中で、「D・I」値とある記号は、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目についての増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値（景気動向指数）を示す。

Ⅱ. 概 況

－業況は悪化。再びマイナス圏も、次期は回復見込み－

1. 全体の動き(業況)

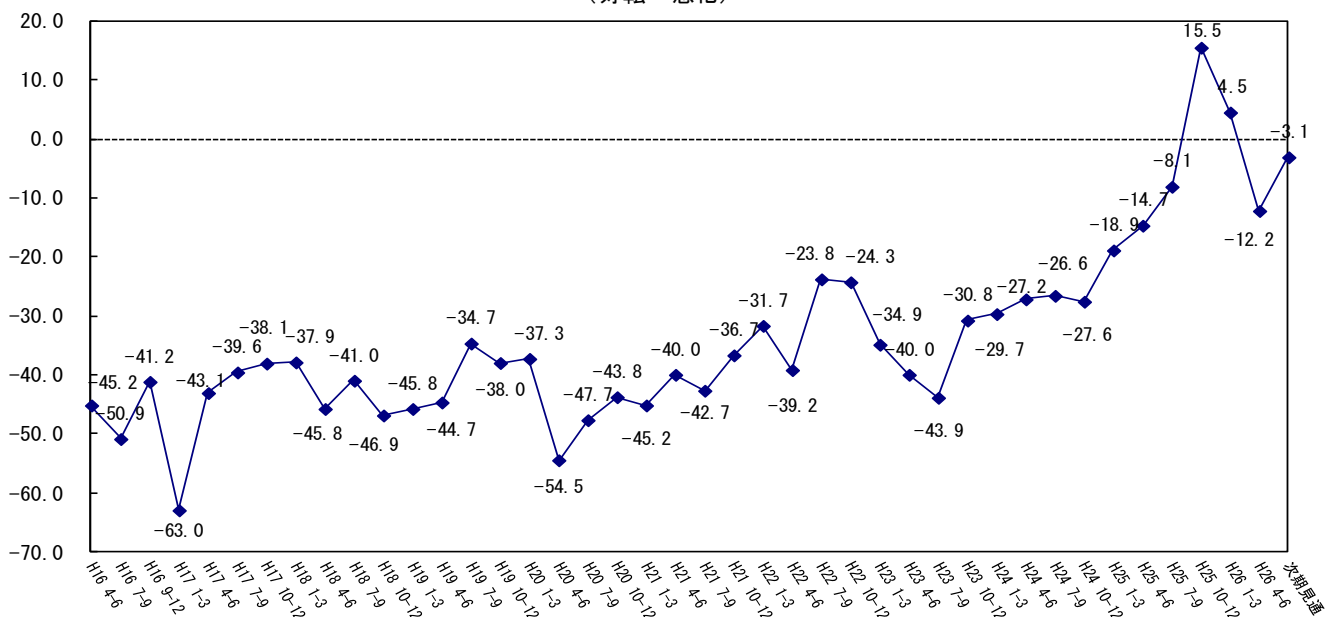
四半期毎に実施している中小企業景況調査の**今期(平成26年4月～6月)の全業種平均DI値**(「好転」と答えた企業と「悪化」と答えた企業の割合の差)は、**前年同期比では▲12.2**と前回調査時の4.5より**16.7ポイントの悪化**と2期振りに再びマイナス圏に下落するという結果になりました。

部会別で前年同期比ベースをみると、商業・食品業 [前年DI値▲36.8→今期▲22.2]、水産業 [前年DI値0.0→今期▲21.7]、機械工業 [前年DI値▲23.5→今期10.5]、建設業 [前年DI値0.0→今期4.8]、観光・サービス・諸業 [前年DI値▲17.6→今期▲33.3] となりました。

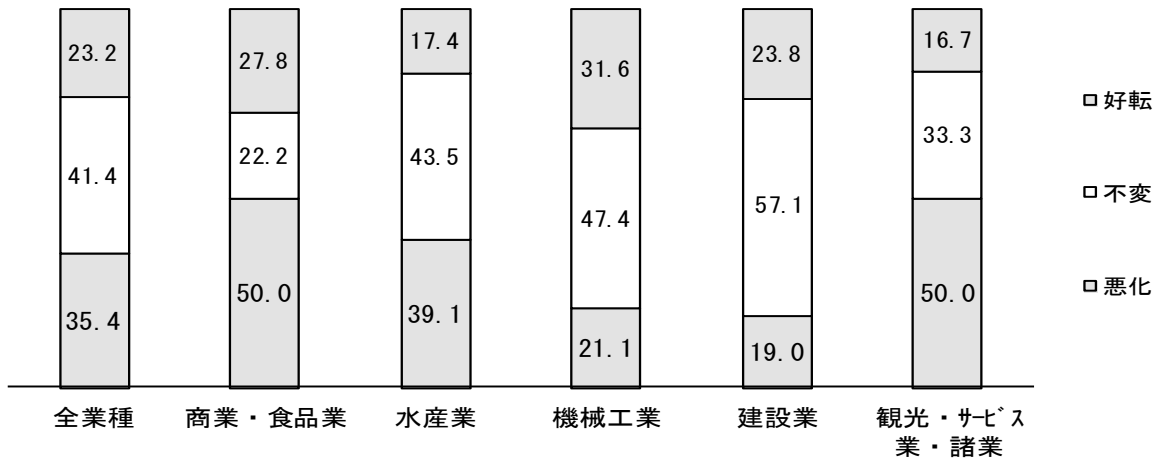
広域紋別病院の移転新築工事と、2016年11月の完成に向けてバイオマス発電所の建設が進む中、認証材を使った建築において受けられる助成金の影響から建設業は依然好調に推移し、建築に付随した塗装業等でも好調であったとの声を聞いております。機械工業も建設業の繁忙に伴い、各種機械等の整備や7月に行われた市議会議員選挙に伴う各種印刷等もあり、業況が好調だったものと思われま。一方、商業・食品業、観光サービス・諸業は4月1日から消費税が8%に上がった影響を受け、3月31日までの駆け込み需要の反動で大きくマイナスとなったものと思われま。水産業ではホタテの本格操業が始まる時期に入り、毛がにかご漁も好調で水揚げ金額は前年を大きく上回っておりますが、依然として活カニの輸入量が減少しており、前年比4割減という発表もあり、カニ加工から安定した帆立の加工にもウェイトをかけている加工場もあると聞いています。

来期(平成26年7月～9月)については、今期と比べて**業況判断DIが9.1ポイント改善**するとの予測となっております。平成14年から着手していた道立オホーツク流氷公園も「海のサロン」の完成で施設の工事、整備が一段落しましたが、最盛期を迎える業種、また増税による反動の落ち着き、また期待感を込めているものと思われま。一方で、高齢化や人口減少による需要の停滞、新たな設備の買い控え、年々増加していく燃料代や光熱費、資材等の経費の上昇や、原料不足による仕入れ価格の上昇等、各業種の抱える問題は山積しており、また更なる電気料金の値上げも報道されておりますので、今後の景気動向には注視していきたいと思ひま。

業況推移 (全業種平均D・I)
(好転－悪化)



今期の業況（前年同期比）



経営上の問題点としては、全体的に需要の停滞と原材料等の価格上昇を訴える声が多く寄せられています。また、会員企業の訪問の際にも人手不足を訴える声が多く、特に水産部会や建設業では繁忙にも関わらず原料不足という状況に苦慮しているときいています。市内では広域病院の移転新設やバイオマス発電所建設工事が進むため、建設業社は多忙になると思われます。設備投資については、若干動きが出ていますが、慎重な見方も続いています。

■部会別の動向

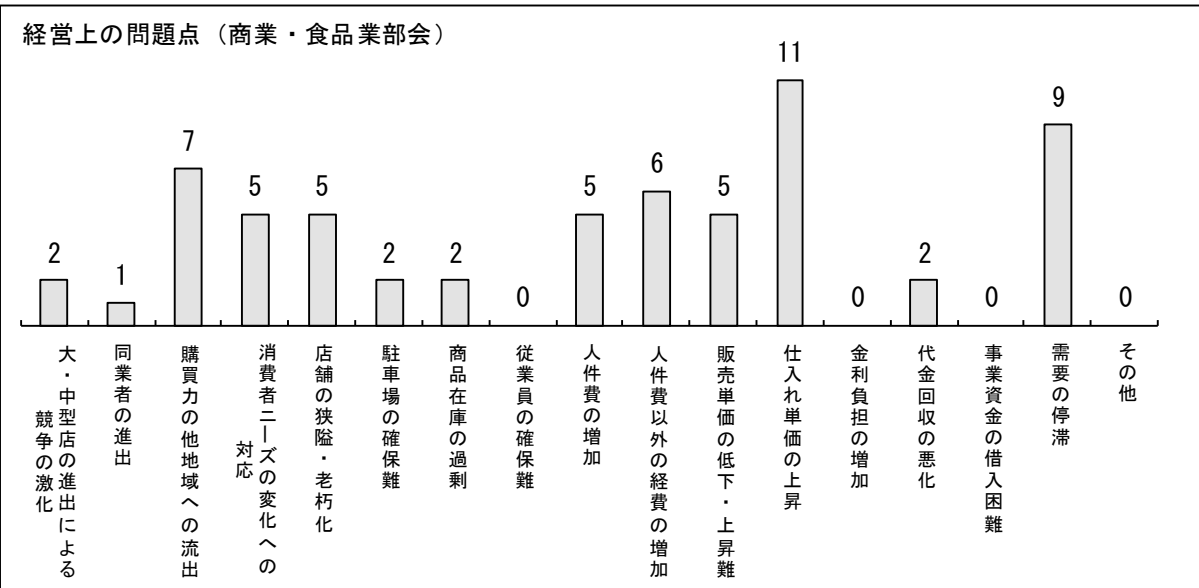
【商業・食品業部会】〔業況判断DI値（前年同期比）▲22.2（前年DI値▲36.8、来期見通し▲28.7）〕

業況DI値（前年同期比）は、厳しい状況で推移してるものの、前年同期より14.6ポイント回復となっています。商業食品業部会は4月1日の消費税率が8%になった事に伴う、3月31日までの駆け込み需要による反動もマイナスの要因の一つとなっているものと思われます。次期の見通しも▲28.7とお盆商戦もあまり先の見通しが立たないという状況のようです。

経営上の問題点としては「需要の停滞」「仕入れ単価の上昇」「購買力の他地域への流出」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・現在の商店街は「人が来ないから店を閉める」⇔「店を閉めるから人が来ない」の悪循環となっている。（小売）
- ・紋別過疎化による人口減の不安と対策方法（小売）
- ・人口減少による購買力の低下。増税と前後して仕入れ価格の値上げがあり、100%の転嫁が出来なかった。（小売）



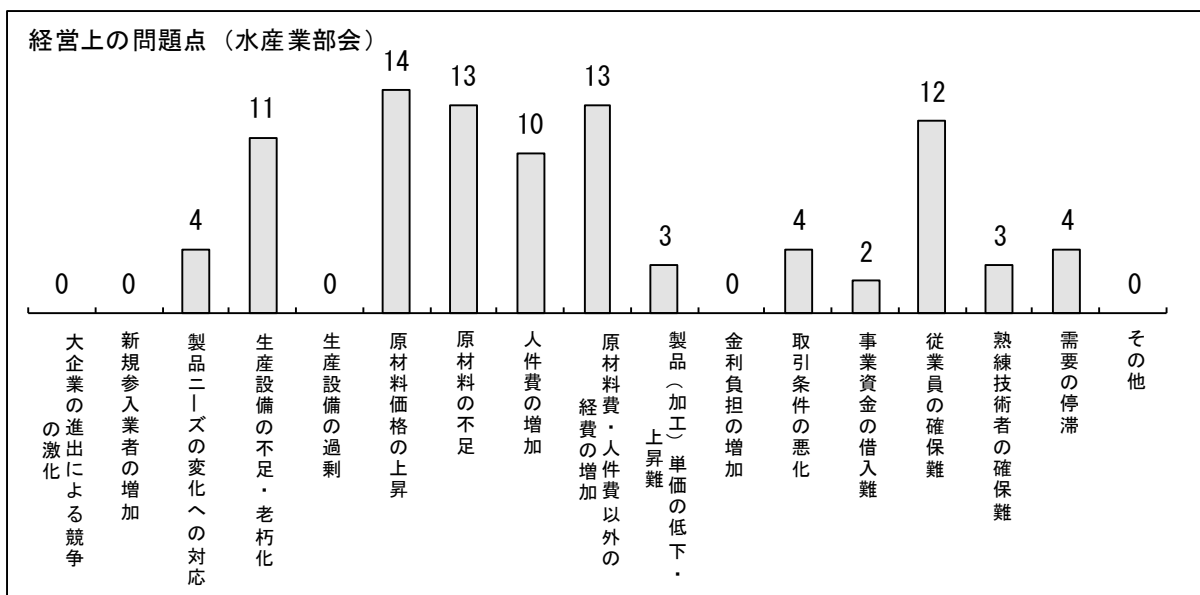
【水産業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）▲21.7（前年 DI 値 0.0、来期見通し 0.0）〕

業況判断 DI 値（前年同期比）はマイナス圏ではあるが、前期▲31.6 より 9.9 ポイント回復となっており、業況は海明けによる改善傾向と思われます。毛ガニの水揚げが昨年よりも良かったとの報道もあり、最盛期を迎える来期見通しについても、0.0 ポイントと大幅に改善の期待を持った数字となっております。しかしながら現場の声を聞いてみると、原魚やホタテの不足状態・輸入活カニの大幅な減少、燃料高騰による光熱費の上昇、それに加えて従業員の確保難が経営への影響が大きいと聞いております。

経営上の問題点としては「原材料費・人件費以外の経費の増加」「原材料の不足」「原材料価格の上昇」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・原料不足（カニ）で価格高騰（水産加工）
- ・原料水揚げの減少による価格上昇。諸経費の上昇。原価上昇分の製品への転嫁が困難である。（水産加工）



【機械・工業部会】〔業況判断 DI 値（前年同期比）10.5（前年 DI 値▲23.5、来期見通し▲10.5）〕

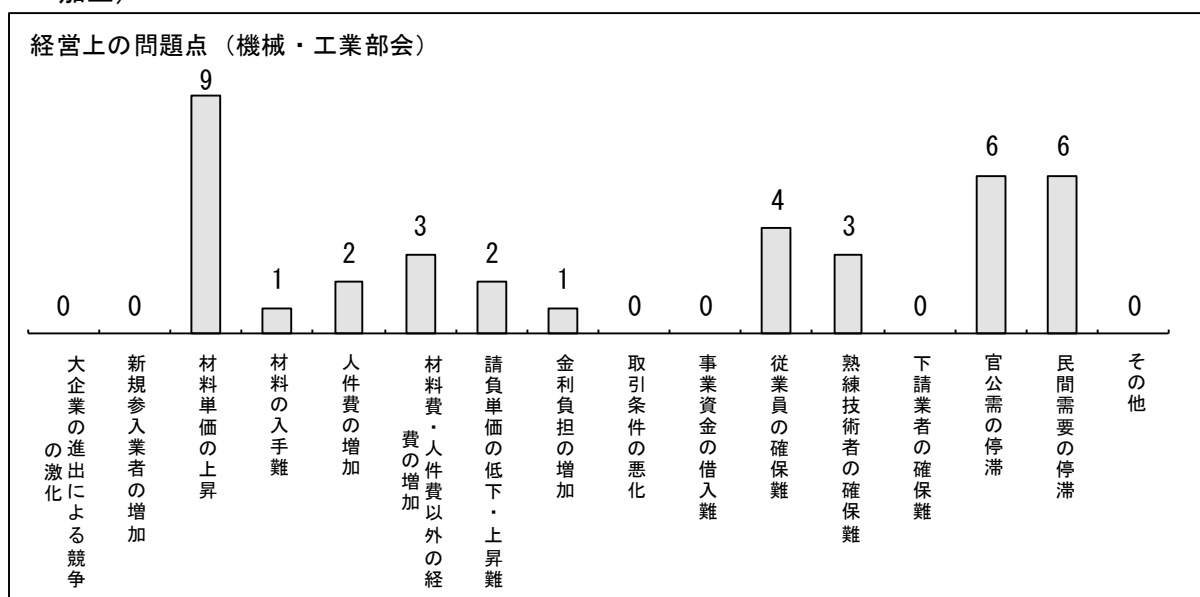
業況判断 DI 値（前年同期比）は、前年 DI 値と比べると 34 ポイント大幅に改善しています。好調に推移している建設業関連での引き上げと、年度開けの受注が大きな要因と思われます。次期見通しは、今期よりも 21 ポイントと大きく悪化するとの予想であり、好調だった今期から落ち着き、停滞するという見通しが多かった事からだと思いますが、関連する建設業が来期も好調の見通しとなっているので、次回の調査では大きな悪化にはならないものと思われます。

経営上の問題点としては「材料単価の上昇」「民間需要の停滞」「官公需の停滞」を訴える声が多く寄せられています。

《業界の問題点等》

- ・材料費など全て上がり、経営側も売上の仕方に四苦八苦ししています。（鉄工）
- ・最近お客様が高齢化し、自動車をやめるといふ人が目立ちはじめ、ユーザーの減少になっています。紋別の人口が多くなる様な処置を皆で考えたいです。（自動車販売）
- ・少額端数の付く商品が増え、切り捨てを要求されるため、値引き後に更に値引きをしている。
例 29,800（5%込み）⇒30,650（8%込み）となるころ、売値 30,000 円（機械小売・修理）
- ・消費税や燃料代の上昇により、消費者の購買引き締めが感じられる。（印刷）
- ・新車購入時、取得税、重税の減税告知不足。（自動車販売）
- ・消費税増税による経費増加（鉄工）
- ・以前より設備投資、修理が少なくなっていたが、ますます使用出来る範囲ギリギリまでしな

いお客さんが多くなってきて大変。これも材料の高騰と消費税の増税の影響かと思う。(鉄工)
 ・私達のような中小企業は事務職員も少なく、税 up に伴う変更処理に苦勞をしています。(木材加工)



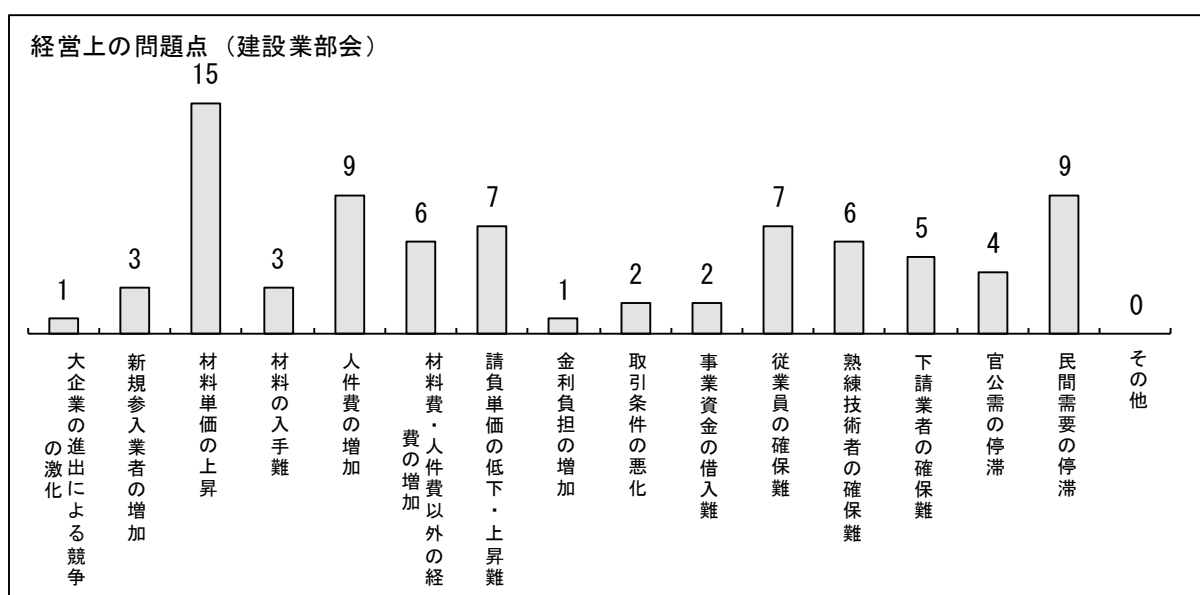
【建設業部会】〔業況判断DI値(前年同期比) 4.8 (前年DI値0.0、来期見通し23.8)〕

業況判断DI値(前年同期比)は、前年DI値0.0から改善です。公共工事の増加、太陽光発電事業工事に加え、広域病院の移転新設工事やバイオマス発電所関係、また市内に限らず近隣町村の受注もあることから、建築工事に係る塗装や内装等も業況が回復しておりますが、仕事量の増加に対し、人手が少ない状態になっているという話も聞いております。来期は夏の繁忙期に突入し、更なる業況回復が見込め、次期見通し23.8という数字にも表れております。

経営上の問題点としては「民間需要の停滞」「材料単価の上昇」「人件費の増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

- ・請負単価が安い。増税に伴い材料費が一割程度値上がりするも単価上がらず。(内装業)
- ・業者等の数などを考えて発注をしていただきたい。(技術者、作業員不足などで)(建設)



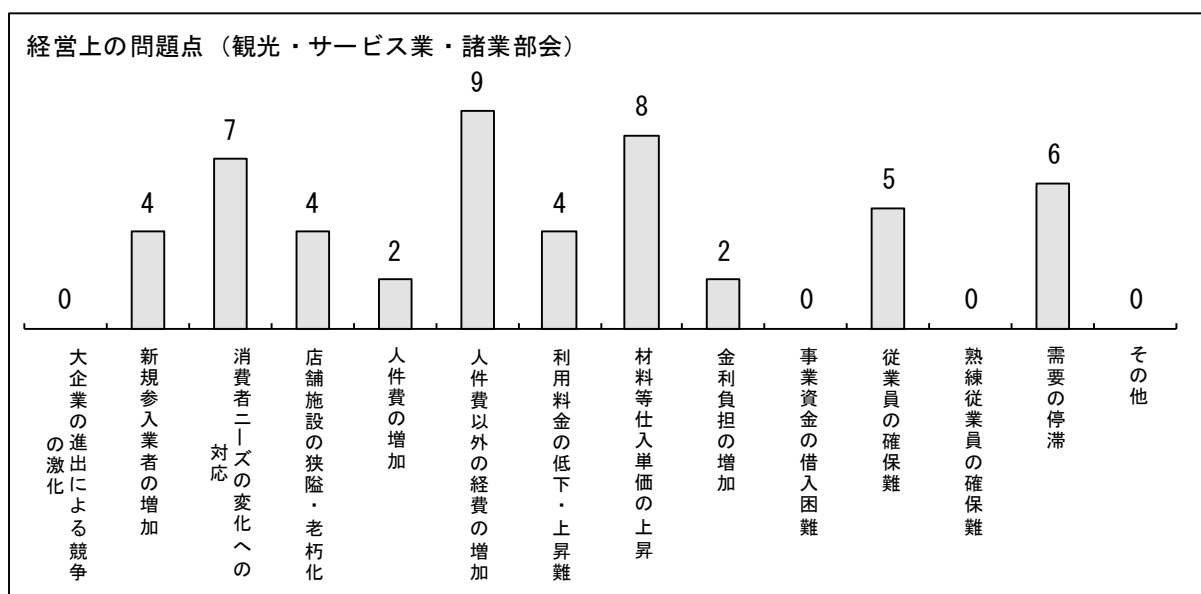
【観光・サービス・諸業部会】〔業況判断DI値(前年同期比) ▲33.3 (前年DI値▲17.6、来期見通し▲5.6)〕

業況判断DI値（前年同期比）は前年DI値よりも悪化しています。ゴールデンウィークは昨年のような悪天候ではなかったものの、消費税増税による価格上昇により、財布の出納状況を見ているのかもしれませんが。飲食業や理美容業では税込価格の表記が多いため、消費税の転嫁が難しいという声を聞いております。7月には道立オホーツク流水公園が海のサロンの完成で全面オープンとなり、更なる集客に望みを掛けたいところです。来期見通しはマイナス圏ではあるものの、27.7ポイント大きく回復と、夏の観光シーズン本番に期待値と見ております。

経営上の問題点としては、「消費者ニーズの変化への対応」「材料等仕入れ単価の上昇」「需要の停滞」「人件費以外の経費の増加」を訴える声が多くなっています。

《業界の問題点等》

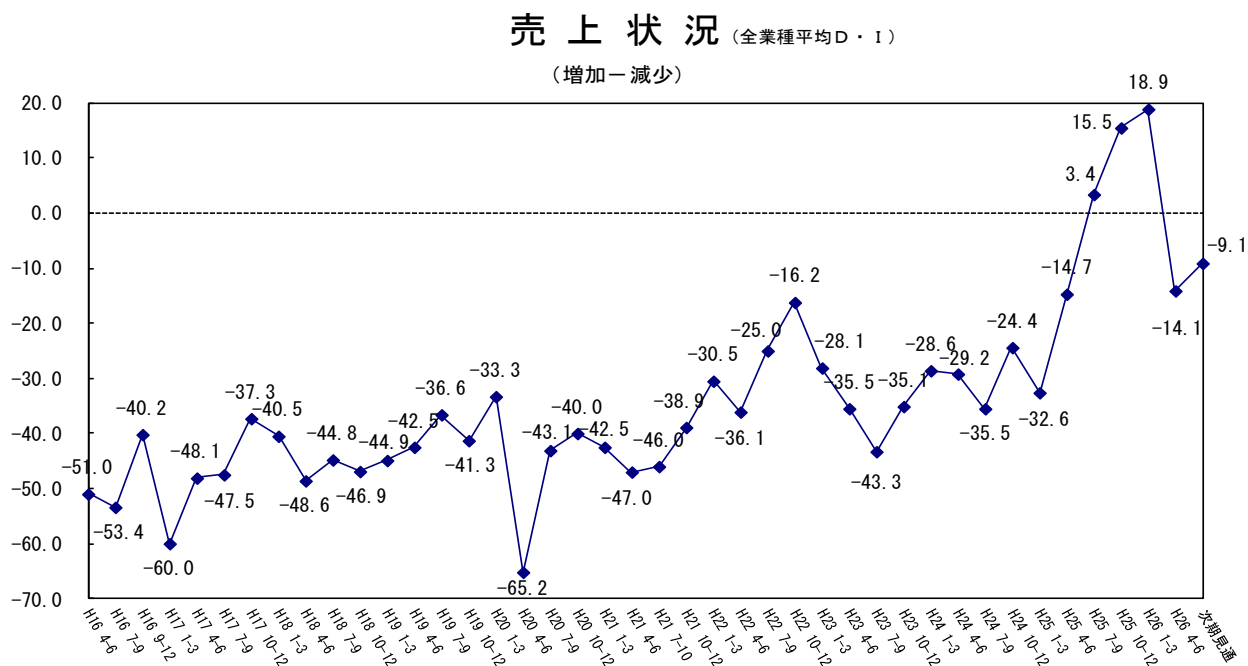
- ・弁当、オードブル等、税込価格を予定されるため、転嫁しづらい。（飲食業）
- ・現在のお客様が求めているニーズが理容の得意分野になってきてる為、やり方によってはチャンスである。ただ、業界全体が高齢化のため、前向きに捉え、そこを活かしていけるかは疑問。（理容業）
- ・人口減少（不動産業）



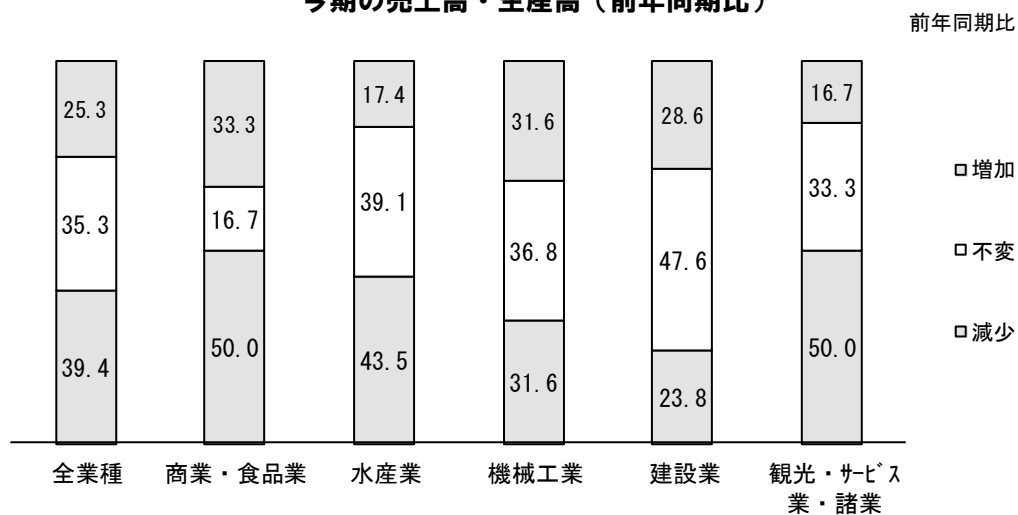
2. 今期の動向

(1) 今期の売上高・生産高

【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の売上高）



今期の売上高・生産高（前年同期比）



全業種平均で DI 値▲14.7 [前年 DI 値（平成 25 年 4～6 月期△14.7）と同ポイント]

[部会別 DI 値] 商業・食品業 [前年▲36.8→▲16.7]、水産業 [前年▲0.0→▲26.1]
 機械工業 [前年▲23.5→0.0]、建設業 [前年 4.8→4.8]
 観光・サービス業 [前年▲23.5→△33.3]

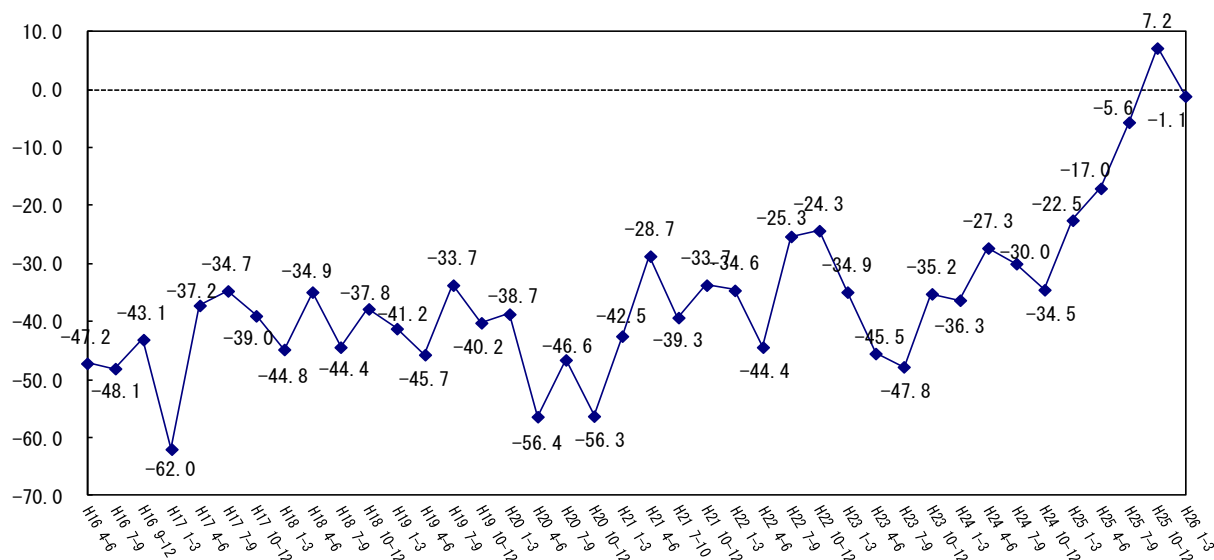
(2) 今期の採算

【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の採算水準）

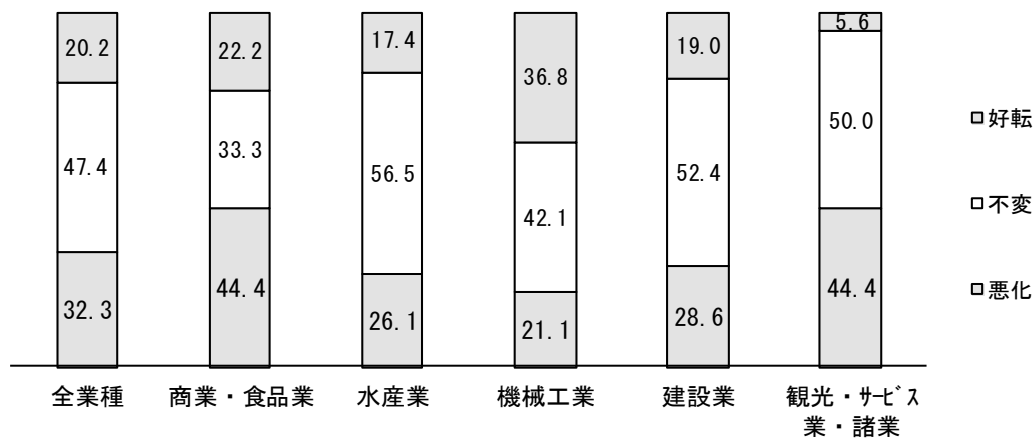
採算推移（全業種平均 D・I）

（好転－悪化）

前年同期比



今期の採算（前年同期比）



全業種平均でDI値▲12.1〔前年DI値（平成 25 年 4～6 月期▲17.0）より 4.9 ポイントプラス〕

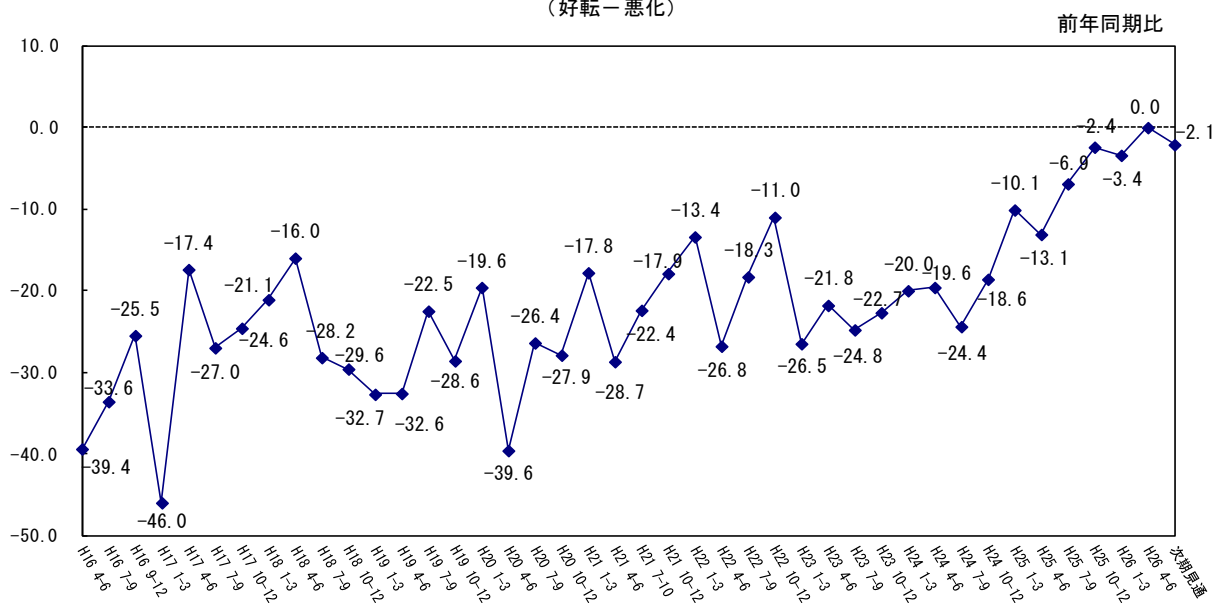
〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲26.3→▲22.2〕、水産業〔前年▲4.8→▲8.7〕
 機械工業〔前年▲23.5→15.8〕、建設業〔前年▲9.5→▲9.5〕
 観光・サービス業〔前年▲25.0→▲38.9〕

(3) 今期の資金繰り

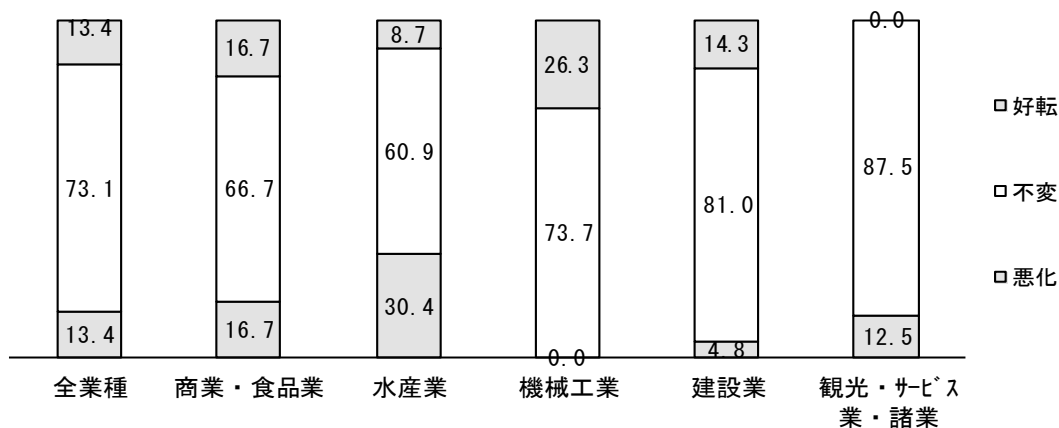
【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の資金繰り）

資金繰り (全業種平均D・1)

(好転－悪化)



今期の資金繰り（前年同期比）



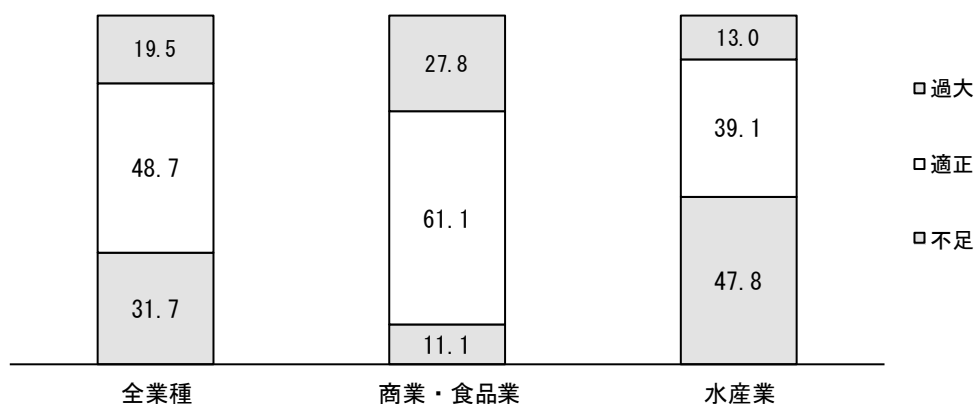
全業種平均でDI値0.0〔前年DI値（平成25年4～6月期△13.1）より13.1ポイントプラス〕

〔部会別DI値〕 商業・食品業〔前年▲16.7→0.0〕、水産業〔前年▲9.5→▲21.7〕
 機械工業〔前年▲6.3→23.3〕、建設業〔前年▲14.3→9.5〕
 観光・サービス業〔前年▲18.8→▲12.5〕

(4) 今期の在庫水準

【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の在庫水準）

今期の在庫水準（前年同期比）



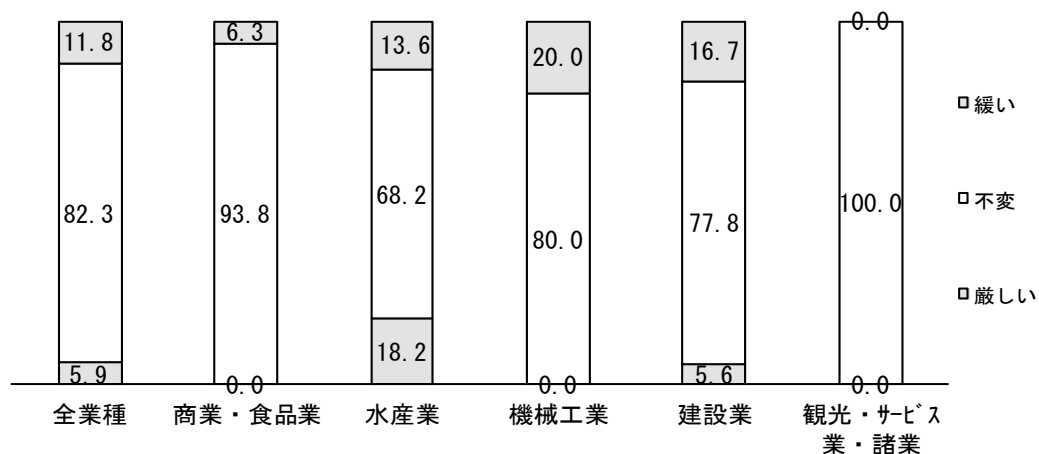
全業種平均で DI 値▲12.2〔前年 DI 値（平成 25 年 4～6 月期▲10.0）より 2.2 ポイント在庫不足〕

〔部会別 DI 値〕 商業・食品業〔前年▲5.3→16.7〕、水産業〔前年▲14.3→▲34.8〕

(5) 今期の金融機関の貸出姿勢

【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の金融機関の貸出対応）

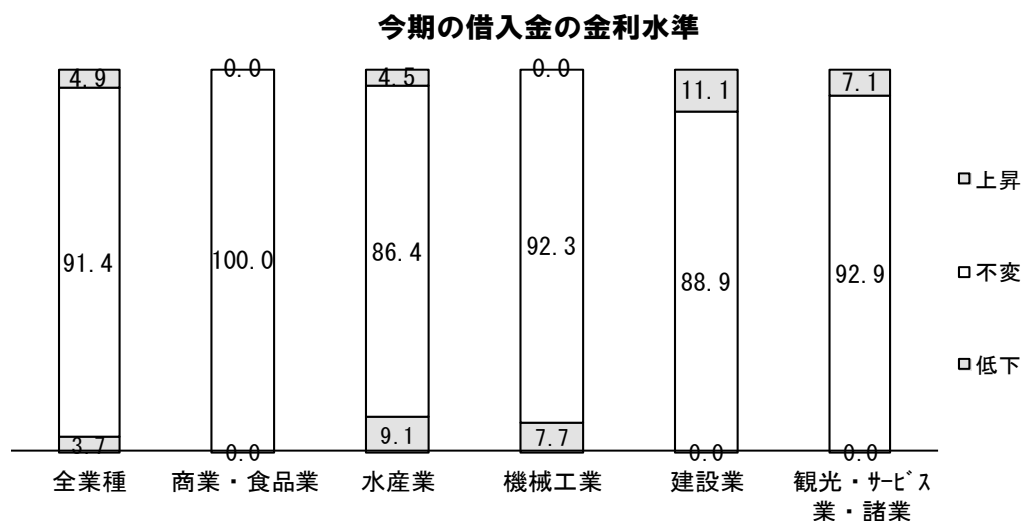
今期の金融機関の貸出姿勢



全業種平均で 5.9 ポイント。商業食品業 6.3、水産業△4.5、機械工業 20.0、建設業 11.1、観光サービス業 0.0。

(6) 今期の借入金の金利水準

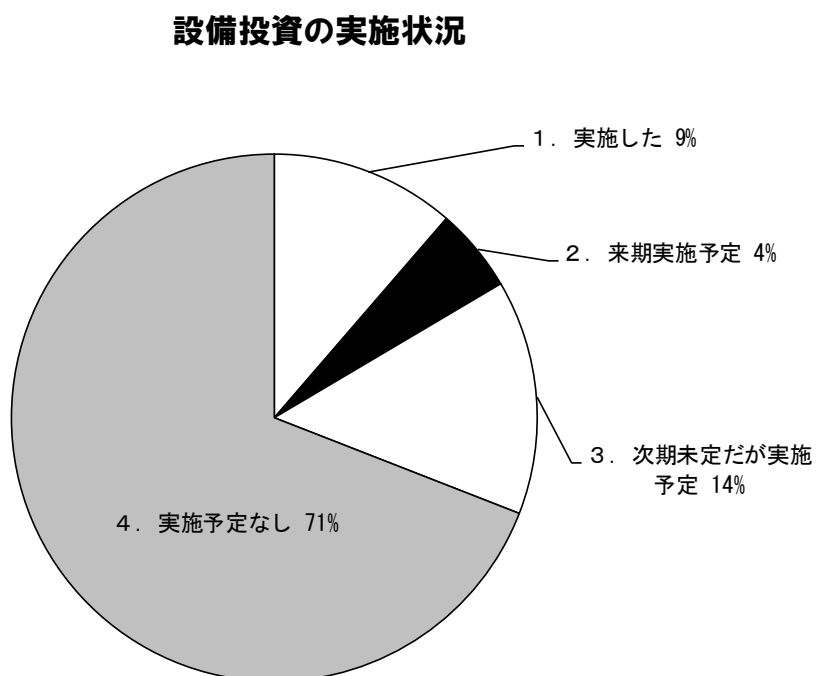
【前年同期比】（平成 25 年 4 月～6 月期の水準と比較した今期の借入金の金利水準）



全業種平均で 1.2 ポイント。商業食品業 0.0、水産業▲4.8、機械工業▲7.7、建設業 11.1、観光サービス業 7.1。

(7) 設備投資の実施状況

今期の店舗・社屋・工場等への設備投資実施状況について

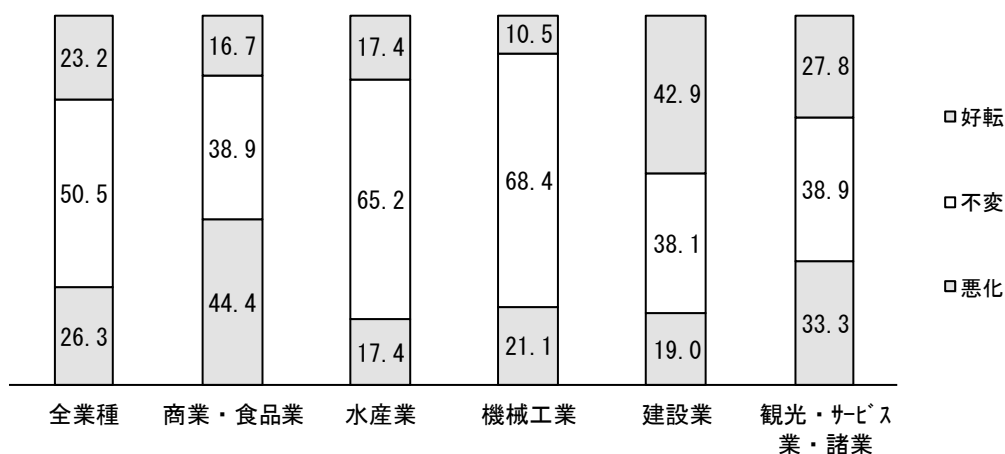


3. 来期の見通し

(1) 来期の業況

【今期比】（平成 26 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の業況見通し）

次期の業況見通し（今期比）

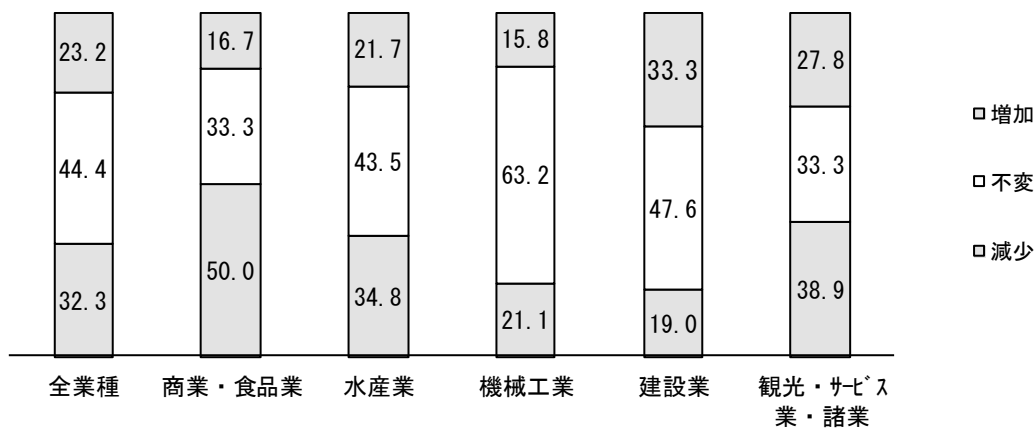


全業種平均 DI 値▲3.1 [今期の業況（前年同期比 0.0）より 3.1 ポイント悪化の見通し]

(2) 来期の売上高・生産高

【今期比】（平成 26 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の売上高・生産高見通し）

次期の売上高・生産高見通し（今期比）

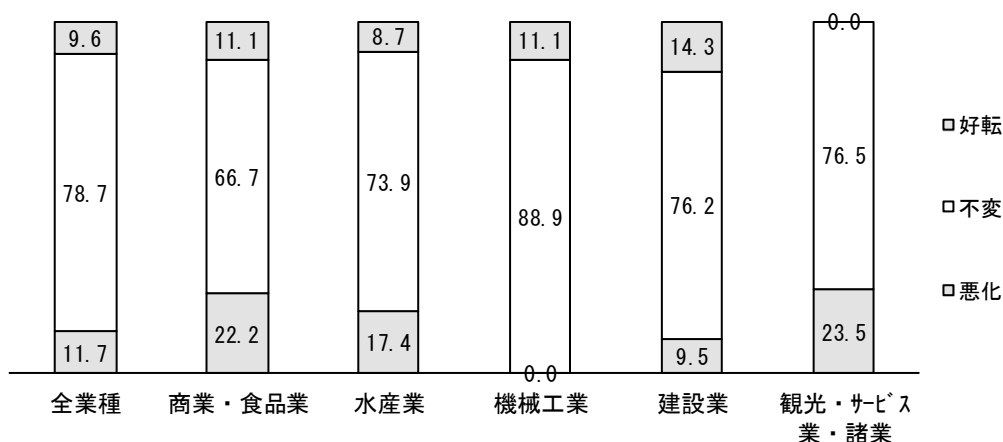


全業種平均 DI 値▲9.1 [今期の売上高・生産高（前年同期比 2.1）より 11.2 ポイント悪化の見通し]

(3) 来期の資金繰り見通し

【今期比】（平成 26 年 4 月～6 月期の水準と比較した来期の資金繰り見通し）

次期の資金繰り見通し（今期比）



全業種平均 DI 値 ▲2.1 [今期の資金繰り（前年同期比▲2.3）より 0.2 ポイント改善の見通し]

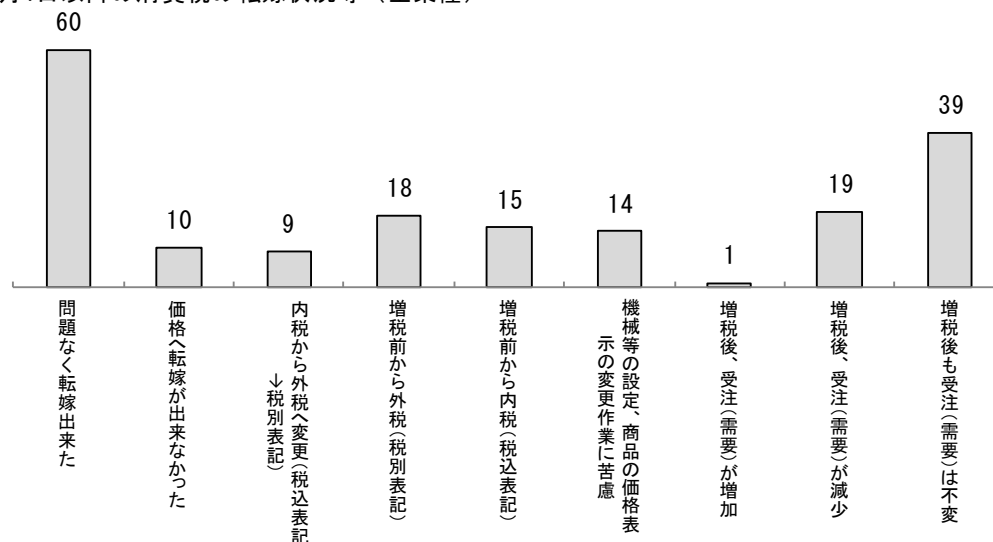
4. 消費税率引き上げに伴う価格への転嫁状況等

4月1日に17年振りとなる消費税の引き上げに関する各事業所の消費税の転嫁状況について、今回調査を実施。

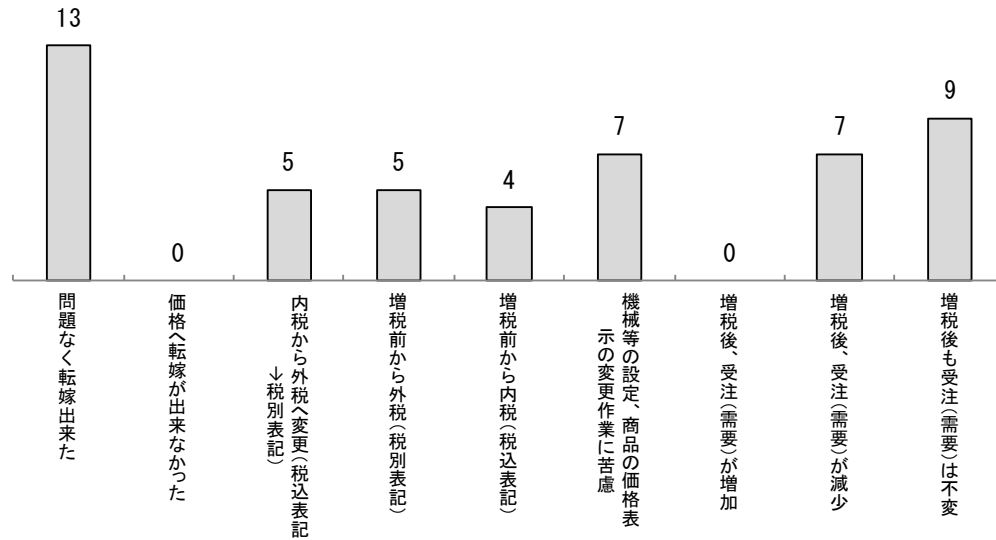
概ね、消費税率 5%から 8%への価格の「転嫁は問題なく出来た」との回答となっていますが、観光サービス業・諸業については、他の部会に比べ転嫁出来たという値が低くなっており、「価格への転嫁が出来なかった」という回答と同数と、増税で転嫁出来なかった分を自ら負担しているという見解となりますが、来年 10 月に「消費税率が 10%となるタイミングで価格へ転嫁する予定」という声も寄せられています。

商業・食品業では、「機械等の設定、商品の価格表示の変更作業に苦労した」「増税後、受注（需要）が減少」という声が他の部会よりも多く、増税に伴う駆け込み需要とその反動を大きく受けたという見解となりました。また、来年の 10%への引き上げを見据え、価格表示を「内税から外税へ変更」したという所も他の部会よりも多くなっています。

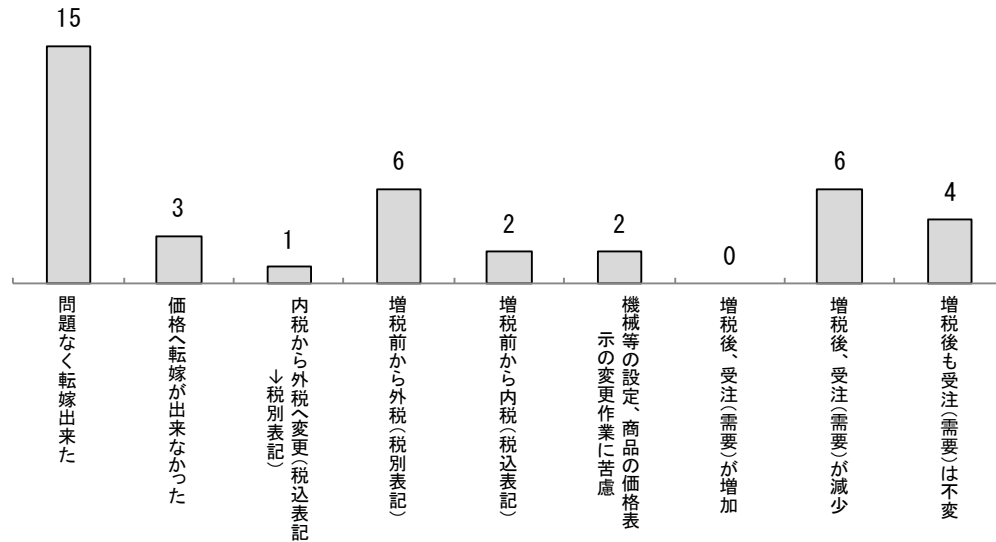
4月1日以降の消費税の転嫁状況等（全業種）



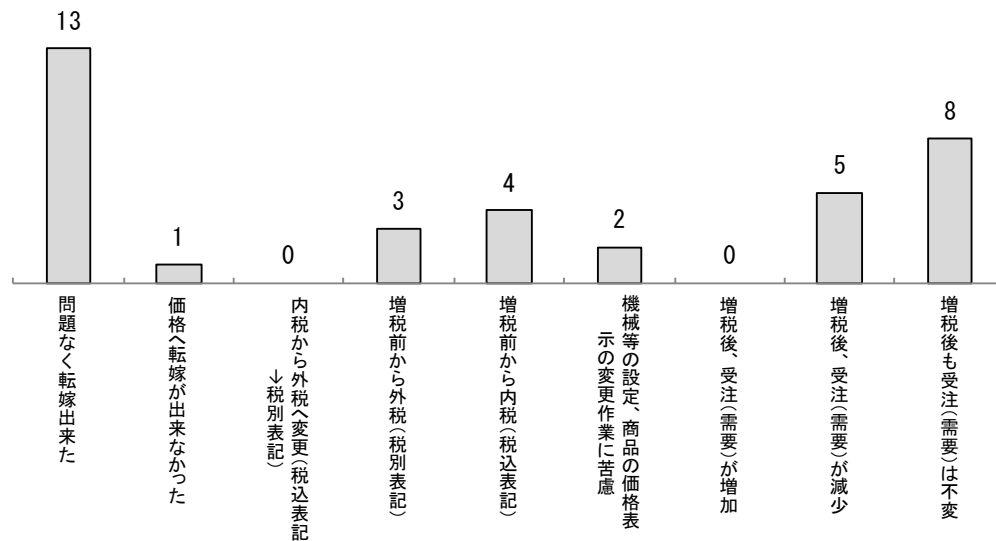
4月1日以降の消費税の転嫁状況等（商業・食品業部会）



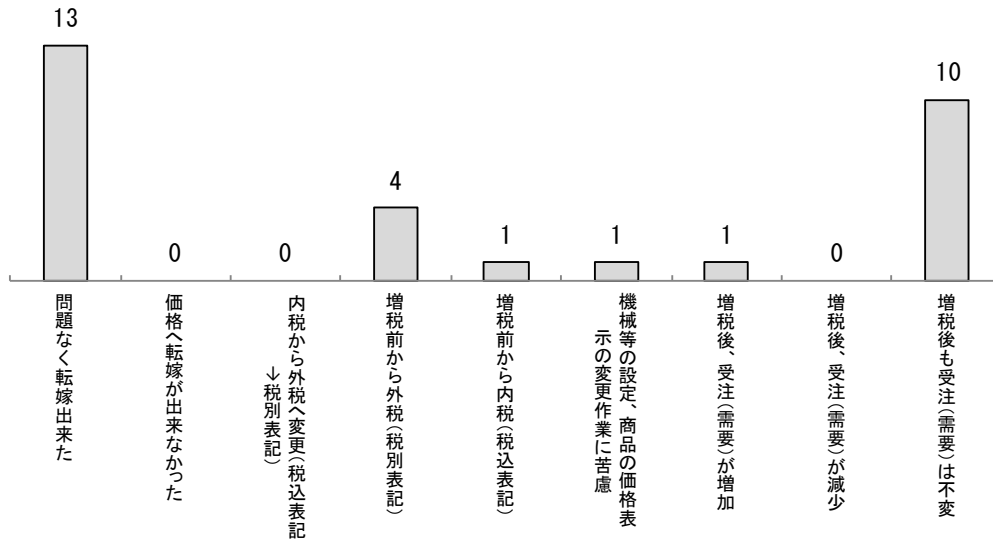
4月1日以降の消費税の転嫁状況等（水産業部会）



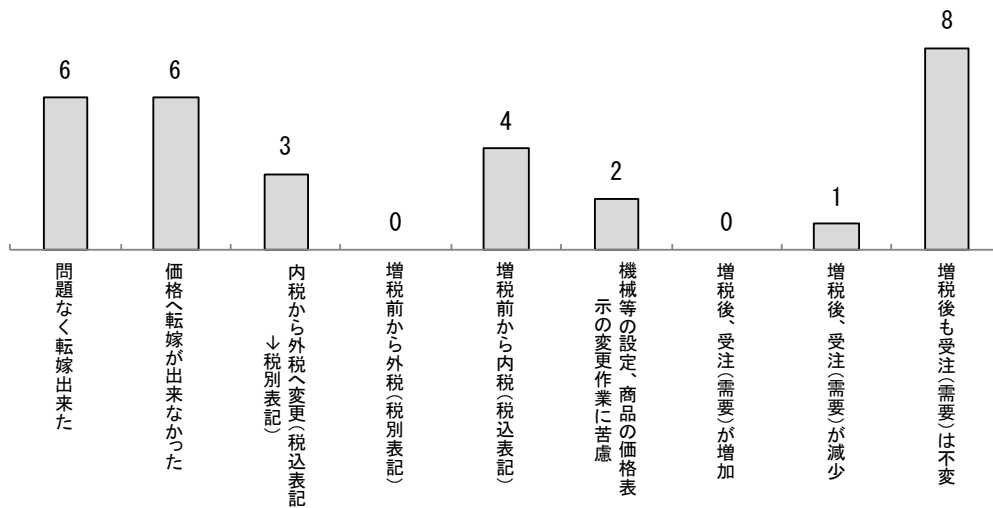
4月1日以降の消費税の転嫁状況等（機械工業部会）



4月1日以降の消費税の転嫁状況等（建設業部会）



4月1日以降の消費税の転嫁状況等（観光サービス・諸業部会）



Ⅲ. 各 指 標

		全 体	商 業 食 品 業	水 産 業	機 械 工 業	建 設 業	観 光 サービス ・ 諸 業
業況判断 D・I	今期実績	▲12.2	▲22.2	▲21.7	10.5	4.8	▲33.3
	来期見通し	▲3.1	▲27.8	0.0	▲10.5	23.8	▲5.6
売上 D・I	今期実績	▲14.7	▲16.7	▲26.1	0.0	4.8	▲33.3
	来期見通し	▲9.1	▲33.3	▲13.0	▲5.3	14.3	11.1
在庫 D・I	今期実績	▲12.2	16.7	▲34.8	—	—	—
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
採算 D・I	今期実績	▲12.1	▲22.2	▲8.7	15.8	▲9.5	▲38.9
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
資金繰り D・I	今期実績	0.0	0.0	▲21.7	26.3	9.5	▲12.5
	来期見通し	▲2.1	▲11.1	▲8.7	11.1	4.8	▲23.5
金融機関 貸出姿勢 D・I	今期実績	5.9	6.3	▲4.5	20.0	11.1	0.0
	来期見通し	—	—	—	—	—	—
借入金 金利水準 D・I	今期実績	1.2	0.0	▲4.5	▲7.7	11.1	7.1
	来期見通し	—	—	—	—	—	—

※借入金金利水準D・I値のプラス値については、借入金利が上昇したと感じた回答が多い時にプラス値で表示されます。